

# 1 歴史環境

～豊かな歴史的遺産が大切に保全され、伝統的な文化が保存・継承されているまち

## ＜基本計画の目標＞

世界に誇れる貴重な歴史的遺産の保存を図るとともに、整備・活用を進めていきます。  
先人から営々と築かれてきた伝統芸能・工芸などの保存・継承に努めます。  
歴史と文化の伝統に裏打ちされた鎌倉らしさを継承し発展させるため、市民や世界に向けて情報を発信します。  
豊かな歴史的遺産を守り後世に伝えるため、引き続き、世界遺産登録推薦をめざします。

## ＜目標指標＞

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
文化財指定件数 (+)	文化財保護法や県・市の文化財保護条例に基づく指定文化財の総件数	557 件	564 件	572 件	576 件	578 件	582 件	607 件
歴史に親しんでいる市民の割合(+)	ここ1年間に、市内の史跡等に訪れた市民の割合	85.9 %	85.2 %	87.5 %	90 %	88.8 %	86 %	86 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	83.7 %	83.4 %	84.2 %	83 %	86.2 %	85 %	85 %

## ＜これまでの取組の評価～進捗と課題＞

評価: ◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

### ・世界遺産登録推進担当

#### ＜昨年度からの課題＞

- ・保存管理計画の策定を完了し、管理団体の指定や史跡の環境整備についても積極的に進める
- ・市民の理解を高めるため、より効果的な広報啓発活動を実施する
- ・国に対してユネスコへの推薦を要請し、地元自治体と国との協力体制を整えるとともに、目標達成の期限の設定について検討する
- ・費用対効果という観点で事業内容を検討する

#### ＜進捗＞

- ・史跡ごとの保存管理計画の策定は終了した。また、管理団体の指定については、地権者の理解が得られるよう、継続的な取り組みを進めている。
- ・「鎌倉世界遺産登録推進協議会」の場において、イベント等広報啓発活動を市民と共に実施することにより、世界遺産登録をより身近なものとしてとらえることのできる機会を設けている。また、文化庁との共催による「武家の古都・鎌倉」国際フォーラムの開催などを通じて鎌倉の歴史環境の素晴らしさをあらためて市民に再認識してもらう取り組みを進めている。
- ・世界遺産登録に向けたユネスコへの推薦時期は、最終的に国が決定するものであるが、平成21年10月には、文化庁に対してユネスコへの推薦要請を実施したところであり、地元自治体と文化庁との協働により、推薦書案の最終的なとりまとめに取り組んでいる。
- ・世界遺産登録の推進については、短・中期的な事業であることから、集中的な経費の執行が必要とされるが、早期の登録実現に向けた取り組みを進めることで、可能な限り事業期間を短縮し、適正な費用対効果を図ることとしている。

#### ＜課題＞

- ・鎌倉の世界遺産登録について関心の薄い方々に対し、世界遺産登録の意義や目的等をより正確に伝える方策を検討、実施し、鎌倉の歴史的資産の重要性を、より多くの方々に理解してもらう必要がある。
- ・早期かつ確実な世界遺産登録に向け、ユネスコへ提出される推薦書の最終的なまとめを行う。
- ・候補資産全般に関わる包括的保存管理計画の策定など、歴史的資産の保存管理や環境整備に引き続き取り組んでいく。

担当部の評価



## ・経営企画部・生涯学習部

### <昨年度からの課題>

施設整備における民間活力導入可能性調査(PFI調査)の実施及び民間活力の導入や博物館、美術館の建設に関する専門委員の委嘱とともに、庁内に「検討委員会」を設置し、具体的な事業実施に向けた検討を進める。

### <進捗>

本年度は、PFI事業による整備を念頭に、民間活力導入可能調査を実施し、PFI事業、博物館、美術館それぞれの専門委員を設置し、また、庁内における関連各課相互の横断的な調整を図るため「野村総合研究所整備事業検討委員会」を設置し、関連課13課による第1回検討委員会を実施しました。

しかしながら、野村総合研究所跡地整備に関する博物館・美術館の整備計画については、本市の厳しい財政状況下において限られた財源を各般行政需要に対応し、効率的に配分する視点から事業としての優先順位を見直す必要が生じました。

そのためこれまでの経過を踏まえ、野村総合研究所跡地の整備における博物館及び美術館の今後の整備のあり方について検討しました。

博物館については、当該地において事業年度を延伸しながら段階的な整備を行うこととし、また、美術館については、当該地以外の適切な用地・施設の選定と事業規模に見合った施設内容を検討することとしました。

### <課題>

・博物館整備用地を除く未利用地の活用については、全庁的な視点から新たに検討をしていきます。また、当該土地及び建物については、引き続き適切な維持管理を行います。

担当部の評価

×

## ・景観部

### <昨年度からの課題>

- ・古都保存法の意義についての啓発事業の推進
- ・歴史的風土保存のため、歴史的風土特別保存地区の指定拡大の推進

### <進捗>

・古都保存法の意義・規制等についての理解と協力を得られるよう、市民や業者、関係団体への啓発活動を広範に実施している。

・歴史的風土特別保存地区拡大範囲の設定、理由の骨子を作成し、関係機関との調整を行っている。

### <課題>

- ・古都保存法のより一層の理解の浸透を目指し、啓発対象・機会を拡大する必要がある。
- ・歴史的風土特別保存地区の指定拡大に係る関係機関との最終合意に向けた資料作成等の作業を早急を実施する必要がある。

担当部の評価

◎

## ・生涯学習部

### <昨年度からの課題>

史跡永福寺跡は、世界遺産の候補遺産となる予定の史跡であり、また、鎌倉市初の史跡整備事業であることから、市民に史跡の価値をわかりやすく伝え、学校教育や生涯学習の場として積極的に活用できる歴史(史跡)公園として公開・活用できるよう着実な事業の推進を図っていかねばならない。

学識経験者及び地元住民代表からなる史跡永福寺跡整備委員会及び文化庁から、具体的な整備方法等について指導・助言があったため、その指導・助言にもとづき整備を行う必要がある。

### <進捗>

平成21年度までに三堂基壇・苑池の復元工事に伴う、土砂のすきとりが終了した。

平成21年度は、市指定文化財を2件指定した。

### <課題>

史跡永福寺跡は、世界遺産の候補遺産となる予定の史跡であるため、平成25年度までに三堂基壇・苑池の復元整備を終了する必要がある。

指定文化財候補は約200件あると思われるが、文化財を保護し、後世に伝えるためには着実に指定をしていかなければならない。

指定することにより保存修理などを行う場合は市も支援を行う必要があるが、その経費の増大に対応していかなければならない。

担当部の評価

◎

## <今後の展開(取組方針)>

### ・世界遺産登録推進担当

- ・「鎌倉世界遺産登録推進協議会」と協働しながら、効果的な広報啓発活動を継続する。
- ・文化庁及び神奈川県、横浜市、逗子市との綿密な連携体制を維持し、推薦書案を完成させ、早期かつ確実な登録に向けた取り組みを進める。
- ・史跡の管理団体指定や環境整備に引き続き取り組んでいく。

### ・経営企画部・生涯学習部

- ・野村総合研究所跡地における博物館の整備については、博物館の機能のうち、出土遺物を整理・保管・調査研究する機能を先行的に整備し、将来的には、歴史資料の展示機能・教育普及機能を持つ観覧・集客施設として博物館の実現を図ることを基本的な方針としました。
- また、美術館については、整備費の縮減や集客施設としての利便性等の観点から、当該跡地以外での適切な用地・施設の選定設置を検討することから、博物館整備対象用地を除く未利用地の活用について、今後、全庁的な視点により、新たな検討を進めていきます。

### ・景観部

- ・古都保存法の意義等を広く周知させるため、また、より一層の理解と協力を得るため引き続き講習会、パネル展示を行うほか、窓口等での相談を通じて、啓発を進めていく。
- ・歴史的風土特別保存地区の指定拡大に係る調整をより一層推進させ、関係機関との合意形成を早急に図る。

### ・生涯学習部

- ・史跡永福寺跡整備委員会の指導・助言のもとに、引き続き国・県及び関係部局、地元住民との調整を行い、着実な事業の推進を図る。
- ・史跡永福寺跡は、歴史遺産として保護・保存し、歴史教育の場として公開・活用するために整備を推進していく。
- ・文化財を良好な状態で後世に伝えていくために、継続して保存修理を実施していく。

# 鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



## 評価できるところ

- ・歴史環境に対する市民満足度は高く、歴史に触れる環境も他都市に比べ整っていると思われる。一方、満足度をさらに向上させるための経費の支出を本当に市民が望んでいるか検証する必要がある。
- ・世界遺産登録にむけて候補資産について、国指定史跡の追加指定申請を行うなど、歴史的資産の保全のために様々な手をうっていることは評価できる。着実に史跡保存策を進めていくことが望まれる。
- ・市内の小・中学校及び高等学校と連携しながら、総合学習の時間や課外授業において、世界遺産登録の推進を契機とした鎌倉の歴史・文化に関する講義を実施しているのは評価できる。



## 課題・提言

- ・世界遺産登録に向けて行動をとるのであれば説明をしっかりと行い市民の理解を高める必要がある。特に市民への世界遺産登録にむけての理解度を高める必要がある。現行では、まだ説明が足りておらず、登録に否定的意見を持つ人も多い状況にある。
- ・鎌倉市の最大の魅力は歴史・自然環境・まちづくりにある。歴史環境の保全には用地取得や歴史的遺産の管理等多額の事業費がかかるが、市民のレベルでは出来ないことなので、行政が引き続き力を入れて欲しい。
- ・14事務事業を進めており、20年度決算値では6億2252万円費やした。市民の世界遺産登録についての関心は高いが、その一方で時期尚早であり、その前に環境保全を望む声も多い。市の方向性を市民の目線に合わせて欲しい。